

憲法学習者の圧倒的サポートを得ている「芦部憲法」

## 第六版が電子書籍で配信開始!

紀伊國屋書店BookWebProにて公費でお求めいただけます。

# 憲法 第六版

芦部 信喜  
高橋 和之 補訂

岩波書店

# 憲法

## 第六版

芦部信喜 著/高橋和之 補訂

岩波書店

価格 ¥3,348 (本体¥3,100)

1993年の初版刊行以来、憲法学習者の圧倒的サポートを得ている「芦部憲法」を4年ぶりに改訂。第五版（2011年3月）刊行以降に現れた重要判例や関連する法律の改正をフォロー。コンパクトでありながら、内容の濃さを維持。初学者から研究者、実務家まで「日本国憲法」を学びたい人に必読の一冊。

「憲法 第六版」のご注文は下記URLへアクセスしてください。

<https://www.kinokuniya.co.jp/03f/bwp/kinopyy/news/KNP-B-7/index.html>

Kinopyy(公費支払)は次のサイトから購入いただけます。

**Book Web Pro** <https://pro.kinokuniya.co.jp/>

※Book Web Proへのご登録は弊社営業担当にお申し付けください。

### 憲法とは何か (岩波新書)

長谷部恭男

憲法は何のためにあるのか。立憲主義とはどういう考えなのか。憲法はわれわれに明るい未来を保障するどころか、ときに人々の生活や生命を左右する「危険」な存在になりうる。改憲論議が高まりつつある現在、憲法にまつわる様々な誤解や幻想を指摘しながら、その本質についての冷静な考察をうながす「憲法再入門」。

560円 (本体価)

### あたらしい憲法のはなし 他二篇 (岩波現代文庫)

高見勝利

日本国憲法が公布、施行された1946-47年に発行された小冊子。中学1年生用の社会科の副教材「あたらしい憲法のはなし」。全国に家庭に配布された憲法普及会編「新しい憲法明るい生活」。法制局関、内閣発行の「新憲法の解説」。新憲法への熱い思いが伝わってくるこの3篇はいまこそ読み直されるべきだろう。

740円 (本体価)

### 労働法入門 (岩波新書)

水町勇一郎

働くこととはどういう意味をもつか。働くことをめぐってさまざまな問題を抱える労働者に、労働法はどう役立つのか。採用・人事・解雇・賃金・労働時間・雇用差別・労働組合・労働紛争などの基礎知識をはじめ、欧米諸国との比較や近年の新しい動きも満載。労働法の根幹と全体像をやさしく説き明かす、社会人のための入門書。日本の労働法は、どのような理念と特徴をもつものなのか。深刻な問題に直面している労働者たちに、どう役立つのか。採用・人事・解雇・賃金・労働時間・休暇・雇用差別・労働組合・労働紛争などの基礎知識をはじめ、欧米との比較や近年の新しい動きも満載。労働法の全体像をやさしく説き明かす、社会人のための入門書。

800円 (本体価)

### 知的財産法入門 (岩波新書)

小泉直樹

テクノロジーからブランド、デザイン、エンタテインメントまで、私たちの身近にあふれ、生活を豊かにしてくれる知的財産。これを保護し、また、活用するため、関係する法律の仕組みを平易な言葉でわかりやすく解説する。特許法、商標法、意匠法、そして著作権法まで。誰がどのような権利を持ち、権利侵害になるのはどのような場合か。

720円 (本体価)

### 「昭和天皇実録」を読む (岩波新書)

原武史

昭和天皇の生誕から死去までを年代順に記述した「昭和天皇実録」。その細部を丁寧に読みこむと、これまで見えてこなかった「お濠の内側」における天皇の生活様態が明らかになってくる。祭祀への姿勢、母との確執、戦争責任と退位問題、キリスト教への接近……天皇と「神」との関係に注目し昭和史・昭和天皇像を刷新する。

800円 (本体価)

### 集団的自衛権と安全保障 (岩波新書)

豊下楯彦/古関彰一

集団的自衛権の行使は、本当に日本の安全性を高めるのか--? 現実をみない机上の論理、現状分析のない提言、国際感覚の欠如が、「他国防衛」のための戦争へと日本を駆り立てている。安全保障と憲法論の第一人者が問いかける、日本の今。安全保障とは、憲法とは、集団的自衛権とは……。必読の一冊。

820円 (本体価)

### 検証安倍イズム 胎動する新国家主義 (岩波新書)

柿崎明二

「美しく誇りある」父のような国家が国民一人ひとりを子のように指導し、守っていく--。異次元緩和や賃上げ税制など経済政策から教育、憲法改正、安保法制まで、安倍流国家介入型政治に通底するのは「国家の善意」である。その思考と意志を、国会審議や諮問会議議事録など「首相自身の言葉」から探る。

800円 (本体価)

### 沖縄現代史 (岩波新書)

新崎盛暉

"減らぬ米軍基地、実らぬ経済振興-

日米同盟が強化されるなか、沖縄の実現は厳しさを増し続ける。本土復帰以降、多くの困難に粘り強く立ち向かう人びとの闘いと、日米両政府とのせめぎあいを描いた前著に、沖縄戦から復帰まで、および米軍再編協議が進行する最新の状況を新たに加え、全面的に改訂した決定版・通史。"

820円 (本体価)

### 世界共和国へ 資本=ネーション=国家を超えて (岩波新書)

柄谷行人

「資本=ネーション=国家」という接合体に覆われた現在の世界からは、それを超えるための理念も想像力も失われてしまった。資本制とネーションと国家の起源をそれぞれ三つの基礎的な交換様式から解明し、その接合体から抜け出す方法を「世界共和国」への道すじの中に探っていく。二一世紀の世界を変える大胆な社会構想。

760円 (本体価)

### 憲法への招待 (岩波新書)

渋谷秀樹

「憲法は私たちが守らなくてはならないものか」「憲法改正手続きを定める憲法96条は改正できるか」「日本の上空を通過する他国を攻撃するミサイルを撃ち落とすことは合憲か」など、24の問いに答えながら、日本国憲法の思想と骨格を平明に解説。社会問題となっている事象と憲法との関係をときほぐす、市民のための憲法入門。

800円 (本体価)

### 民法改正を考える (岩波新書)

大村敦志

現在、法制審議会で民法改正のための議論が進んでいる。なぜ今、民法を変える必要があるのか。どのような手続きで変えるのか。ヨーロッパや東アジアにおける民法改正の歴史、最近の動向も紹介した上で、社会の構成原理としての民法典を根源的に考察する。現在、法制審議会で民法改正のための議論が進んでいる。なぜ今、民法を変える必要があるのか。どのような手続きで変えるのか。ヨーロッパや東アジアにおける民法改正の歴史、最近の動向も紹介した上で、社会の構成原理としての民法典を根源的に考察する。

720円 (本体価)

### 会社法入門新版 (岩波新書)

神田秀樹

「会社法」が制定された二〇〇五年以降、リーマンショックを経て、市場と企業はどのような方向に進んできたのか。法の対応は? 条文からだけでは捉えにくい「会社法」のポイントをコンパクトに解説。平成二六年改正や「コーポレートガバナンス・コード」策定など、最新の動向も反映する。この一冊でわかる!

800円 (本体価)

### 日の丸・君が代の戦後史 (岩波新書)

田中伸尚

掲揚と斉唱の定着化をめざす政府によって、さまざまな軋轢が生み出されながら、人びとの心に刺さり続けてきた日の丸・君が代。それに抗う人たちが訴えるものは何か。占領期から国旗国歌法成立後にいたるまで、数々の事件やエピソードをたどり、戦後社会が思想・良心の自由と歴史認識の問題にどう向き合ってきたのかを浮かび上がらせる。日の丸・君が代に抗する人たちは何を訴えてきたのか。占領期から国旗国歌法成立後まで、数々の事件や出来事をたどり、戦後社会が思想・良心の自由と歴史の問題にどう向き合ってきたのかを浮かび上がらせる。

620円 (本体価)

### 昭和天皇・マッカーサー会見 (岩波現代文庫)

豊下楯彦

長らく戦後史の謎であり続けた全11回の極秘会談。二人は何を話したかが「松井文書」解読で初めて明らかにされた。両者の会見とその後の昭和天皇の言動を精緻に検証した本書は、戦後レジーム形成に、昭和天皇が極めて能動的に関与した衝撃の事実を含めて描き出す。戦後史と昭和天皇を論争的に問う岩波現代文庫オリジナル版。

1,040円 (本体価)

### 右傾化する日本政治 (岩波新書)

中野晃一

日本は右傾化しているのか、それとも「普通の国」になろうとしているだけなのか。いったい、どちらなのか? --政治主導のもと、寄せては返す波のように時間をかけて、日本社会の座標軸は右へ右へと推し進められていった。そのプロセスを丹念にたどりつつ、新しい右派連合とその「勝利」に直面した私たちの現在を描き出す。

780円 (本体価)

### 外交ドキュメント歴史認識

服部龍二

歴史教科書、靖国参拝、「従軍慰安婦」……様々な利害が絡み合う歴史認識問題。しかしそこには、関係悪化と修復とを繰り返してきた東アジア国際関係の複雑な歩みが存在した。日本政府は歴史認識問題とどのように向き合い、中国・韓国とどのように対話してきたのか。その過程を丁寧にたどり、日本の立ち位置を明らかにする。

820円 (本体価)

### 沖縄密約-「情報犯罪」と日米同盟「情報犯罪」と日米同盟 (岩波新書)

西山太吉

日米の思惑が交錯した沖縄返還には様々な「密約」が存在したことが、近年相次いで公開された米公文書や交渉当事者の証言で明らかになってきた。核の持ち込み、日本側の巨額負担……。かつてその一角を暴きながら「機密漏洩」に問われた著者が、豊富な資料を基に「返還」の全貌を描き、今日に続く歪んだ日米関係を考察する。沖縄返還の裏には密約が存在した。核持ち込み、基地自由使用、日本側巨額負担……。かつてその一角を暴いて「機密漏洩」に問われた著者が、数々の米公文書や証言をまじえてその全貌を明らかにし、今日の歪んだ日米関係を考察する。

560円 (本体価)

BookWebProでの「憲法」特集ページは以下にアクセスしてください。ご注文もこのページから